

国際協力特別賞

核兵器のない平和で公正な世界を

山形県立鶴岡中央高等学校 2年

山田 陸大

日本の広島・長崎に原子爆弾が落とされて、七十四年が経ちました。日本はもちろん、世界にとってあまりにも多すぎる犠牲者を生むことによって、世界中で繰り広げられた大きな戦争は終わったのです。しかし、世界中が平和になっても痛み続ける人達が確かに、日本には居ます。七十四年もの間、たった二日間の事を今でもはっきりと憶えている。忘れることができない人達が居ます。被爆者です。原子爆弾は、都市を一瞬にして火の海にしました。たくさんの死者を出し、被爆者として今も尚、苦しむ人が居る中で、この非人道的と言える核兵器が、現在進行形で存在している事に、疑問を抱かずにはいられません。

私が初めて核兵器の恐ろしさを知ったのは、小学校低学年、図書館でやっていた、被害者の写真展でした。真っ赤な背中、抜け落ちる髪の毛、ぼう然と立ち尽くす女の子。当時は、ただただ怖いだけでした。そして中学校の修学旅行として、私は広島に行きました。原爆資料館はもちろん、多くの写真、遺物、訴えを見て、聞いてきました。そうして、被爆者や戦争経験者の声を聞く度に、世界から核兵器が無くなり、各国が平等に平和に協力できる世界というのを考えるようになりました。

私は今年の夏休みに行われた長崎の原水爆を禁止にするための世界的なイベントに参加してきました。そこには中国、韓国、アメリカ、イギリスなど様々な国の人達が心を供にして、各国での運動を報告しました。私はこれまで、日本への原爆投下による被爆についてしか学んできませんでした。しかし、世界には多くの核兵器が存在していて、その分だけ、核実験も行われてきたのです。つまりは日本以外にも被爆した人達がいる、苦しんできた人達がいるという事です。私はその事についてもっと知るべきだと思いました。世界中の人々が核兵器が無くなる事を望んでいる。私はそこで感じました。そして今、世界で進んでいる核兵器廃絶の運動として、核不拡散条約や核兵器禁止条約などがあります。二つ目の条約はまだ発効されていませんが、七十カ国が調印、二十三カ国が批准しています。発効には五十カ国の批准が必要で、世界中で発効に向けて様々な活動が行われています。長崎でのイベントもその一つでした。世界が協力して、核廃絶へ動きつつある中で目立つのはやはり、日本の働きかけだと思います。世界で唯一の被爆国である日本が中心となって行動している事によって、核兵器が無い未来が近づいてくると思うのです。そのためにもっと多くの人達の積極的な行動が必要だと私は思いました。

私は、世界で唯一の被爆国である日本の国民だから、核兵器について考えるのではありません。核兵器の存在する世界の根底に広がるのは、不平等や脅威だと思います。今、確かに、多くの国々での核廃絶や禁止が実行されていて、日本でも、もちろん所持していません。しかし、自分達が持っていないなくても他の国が持っていたらどうでしょうか？もし、貿易など外交によって、持っている国と、持っていない国が対立してしまった場合、常に優位に立つのは、核兵器を持つ国ではないでしょうか？そんな核兵器の力による不平等から生まれる国間での息苦しさはあってはなりません。

そのためにも世界中での核廃絶の行動がもっと広まらなければならないと思います。高校生だから関係ないなんて思いません。少しの力になるのであれば、私達は行動していくべきです。世界との協力がこの問題には大きく関わっていると思います。